

## 漢字は言葉よりも覚え易い

今から十七年前の事である。講談社から刊行した『漢字による才能開発(副題・三歳からの漢字教育)』の読者だといふ方から、相談の電話を受けた。「お子様の年齢は？」と尋ねると、「一歳半です」と言ふ返事である。「それはまだ早過ぎますよ。タイトルの通り三歳からで十分です」と言ふと、「でも、もうやってゐるんです。それでもう三百字ほど読めるんです」といふ返事が返って来たので私は思はずうなった。

その頃、保育園で、「二歳児と三歳児とに、同じ教材を使って同じやうに教へてゐるが、二歳児の方がよく覚える」といふ報告が、やっと初めて届いたばかりで、それなら、「三歳から……」を「二歳から……」に改めなければいけないかな、とやっと思ひ始めてゐた頃の事であったから、「一歳半で三百字の漢字が読める」といふこの話には、私も全く驚かされてしまったものである。

その話を、たまたま私の所に取材に来た朝日新聞の記者にすると、「それはぜひ伺ひたい」といふ事になり、朝日新聞の全国版に、写真入りで「一歳半の坊や、三百の漢字を読む」といふ大見出しで、私の感想も交へて報道されたことであつた。この坊やが、『石井式漢字教育革命』(グリーソ・アロー出版社)で、「零歳児でも漢字が覚えられる」とい

ふ事の実例として挙げられた“田中庸介”くんである。(この時一歳半だつた庸介くんも、今は十八歳、立派な東大の学生になられた)

私もこの時、記者と一緒に訪問して、庸介くんに出会つたのであるが、一歳半で三百字の漢字が読めるといふだけあつて、目の輝く、いかにも賢さうな幼児であつた。お母さんの話によれば、生後八か月ばかりの頃、庸介くんが泣いてむづかつたので、家の中をあやしなう歩き回つたさうである。その時、なかなか泣き止まなかつた庸介くんが泣き止んで、何やらじっと見詰めてゐる様子。その視線をたどると、それは神棚に下つてゐる「命名・田中庸介」と書かれた半紙だつたのである。

それと気が付いたお母さんは、「あゝこれは庸ちゃんの名前よ。田中庸介、田中庸介……」と、繰返し読んでやつたさうである。それから、庸介くんが泣いてむづかつた時にはいつも神棚の下に行き、「田中庸介」といふ文字を指さして読んでやつたさうであるが、不思議とそれで御機嫌が直つたといふことである。

さうしてゐるうちに、ふと、「漢字なら何でも良いのではないだらうか」と考へるやうになり、「漢字による才能開発」の記事を頼りに“漢字カード”を作り、試みに庸介くんに見せながら読んでやると、漢字そのものがお気に入りらしく、関心を示すことが解つたので、この方法を続けること八か月、その間に漢字カードを三百枚も覚えた、といふこと

であった。

私は、庸介くんに会ふまでは、「零歳児に漢字が覚えられる」とは夢にも考へた事は無かった。然し、庸介くんに会い、その實際を目のあたりに見、お母さんのお話を伺ふと、「人間といふ者は、生れ落ちた時から、言葉に関心を有つと同じやうに、漢字にも関心を有つやうに作られてゐるのではないか」と思ふやうになったものである。

それに、幼児は、一般に、「一歳半では三十～四十語の言葉を覚える」といふのが標準である。さうすると、「漢字は言葉よりもずっと覚え易い」といふ事になる。それも、三百対三十～四十」といふのであるから、大変な違ひである。庸介くんが神童であつたにせよ、漢字が言葉よりも覚え易いことは疑ふ余地が無い。私はさう確信するやうになつたのである。

そこで考へるやうになつた事は、「漢字はなぜ言葉よりも覚え易いのであろうか」といふ問題である。私はそれまで長いこと、「言葉と漢字との違ひは、それが耳から入るか、目から入るかといふ違ひだけであつて、納まる所は同じ大脳であるから、難易の差は本質的には無いのではあるまいか」位に漠然と考へてゐた。然し、これで、「耳から入るか、目から入るか」には大変な差があるのだといふことを、強く感じさせられたのである。

そこで、先づ第一に考へられた事は、「耳で聞く“言葉”は、発せられた瞬間に受取らなければならない」といふ難しい条件を必要としてゐる事である。それは、受取る側に受取る構へが出来てゐなければならぬばかりでなく、その際に少しの取りこぼしも許されないのである。なぜなら、言葉といふものは、時間的にある間隔を置いて次々に発せられては消えて行くいくつもの音声の集合体であるから、初めから終りまで、全体を洩れなく受取らなければ、これをまとめて判断することが出来ない。

それに反して、漢字は一瞬のうちに受取ることが出来、かつ判断できる“まとまり”ある一つの図形であつて、それも、頭の中に完全に納まるまで絶対に消えることなく、待ってゐてくれるものである。このやうにつぶさに比較してみれば、「漢字の方が言葉よりもずっと覚え易い」といふ事がいやでも解つて来たのである。